

Borodimos Picture

Ніло Онака
1963. 3.



古賀辰四郎と31人の漁夫
(二列目左から3人目が古賀氏)

大有丸が大東島から帰航し島の事情が奈良原知事に報告されると、その年1891年12月10日に知事名で大東島は沖縄県那覇役所々管と言う事に決定され翌年2月12日開墾心得書が沖縄県より出された。最初の出願者は那覇区字東町の島袋完兵衛氏次いで那覇区字西町の古賀辰四郎でその内古賀氏だけが保証金五百円を納入し開墾心得書と命令書とが明治5年(1892)2月12日下付された。古賀氏は3月16日大有丸で漁夫31人を率いて22日午後5時大東島着

沖縄県庁より開墾心得書交付

1書夜島の周囲をまわってみたが適当な上陸場所がみつからず上陸をあきらめ24日引返し断念す。

その年(1892年)の8月6日帝国軍艦海門艦長、海軍大佐、齋柴山矢八は佐世保、鎮守府、司命官の命で南北大東島ラサ島を探険。南大東島の南東岸にコンクリートの海軍棒を建てる。

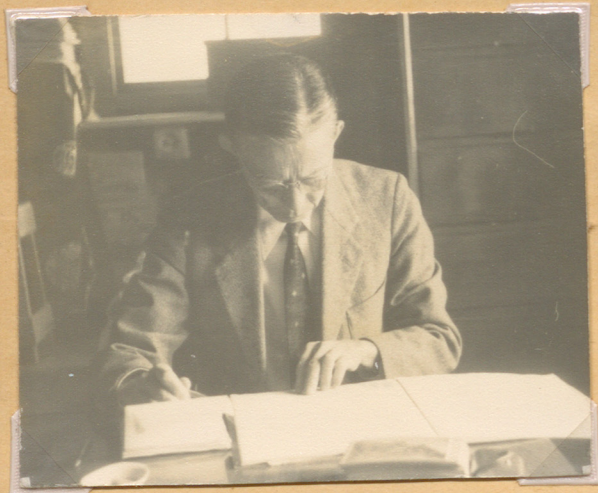
その位置が現在海軍棒として知られて居る。(北緯25°50' 東経131°15')

コンクリートの棒は太平洋戦争で敵の目標点になるとの理由で後型もなく破壊され現在正確な位置を知って居る人はごく一部の人と~~ま~~思われる。





尖閣列島



古賀辰四郎

1855年(安政2年) - 1918年(大正7年) 63才

古賀辰四郎は安政2年福岡県八女郡川崎村字山内の出身で父古賀間次郎同キマ両氏の三男として生れ家業であるお茶業にあきたらず単身24才の

若さで明治12年(1879年)に沖縄に渡り八重山の北方200kmの海上に四つの小島からなる尖閣列島を始め近海島の島々を

最初の南壟許可を得た古賀氏

探險し、遠くロンドンの展覧会等にも出品し受賞したとの事です。明治24年(1891年)36才12月に南大東島開墾許可を得。翌年3月16日大有丸(船長伊知地精)に漁夫31名率いて渡島したが上陸困難な上、同氏の所有地である尖閣列島をすてと正反対の位置にある事などいろいろの事情で南大東島の開墾を断念す。晩年氏は尖閣列島をすて南大東島を開墾しなかった事は自分の失敗であったと話していたと。現在(1962年)那覇市美栄橋に住んでおられる長男の古賀善次が話してくれました。尖閣列島は現在も同氏の所有で米軍の演習場として使用されています。

同氏の長男古賀善次氏から直接聞く事が出来ました事は、川平朝申先生の紹介があつたからです。

尖閣列島所有者

古賀善次氏夫妻

